

# ひかり

2019年3月号



日本聖公会 三光教会

第675号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

ST. Luke

さて、イエスは目を上げて弟子たちを見て言われた。  
「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたの  
ものである。」(ルカによる福音書6:20)

## 心から主に感謝

司祭 グレース 神崎和子

2019年、今年の復活日は4月21日です。その結果、大斎始日が3月6日(水)でした。3月に入ってから大斎節が始まるという年は珍しい年だと思っています。

私が2014年に三光教会の牧師として派遣されたその年も、復活日は4月20日でした。それゆえに大斎節中の様々な礼拝を三光教会の皆様と共に捧げたのが赴任後最初の礼拝となりました。

今思い起こしますと、私の司式はぎこちない不慣れなものであったと思います。にもかかわらず、多くの方々に支えられながら、大斎節を無事過ごすことが出来ました。そして復活日を、喜びを持って皆さまと一緒に迎えることが出来たのです。その後、三光教会の庭で復活日の祝会のごちそうを頂きましたが、これらの事が、ついこの間のことの様に思い出されます。

私の三光教会での牧師としての生活は、このような大斎節から始まりましたが、それは大変意義

深いことであつたと思います。

三光教会での生活の中で大きな部分を占めたのは礼拝です。教会暦をきちんとふまえて、祝日、小祝日を覚え、祭色も考えながら礼拝を献げました。

そのような礼拝の中でも特に毎日の朝の礼拝・聖餐式は印象深いものです。週日朝の礼拝・聖餐式は、朝6時半から礼拝が献げられます。これは勿論特別なことでは無いかもしれません。しかし朝の礼拝・聖餐式から一日が始まることは、5年経過してみても、初めて大きな恵みであつたと実感します。牧師として勤務する中で、日々様々な事柄が起こります。そのような日常の中にあつても、どのような時も心をつくし、一日の始まりに主と向かい合い、祈り、そして聖餐を頂くのです。そして大きな力、励まし、時には慰めを受けて一日の歩みが始まります。これこそが大きな恵みと言えます。

三光教会での5年間、多くの方々のお支えと、励ましを頂き過ぎることができましたことを心から感謝するしだいです。

## 3月・4月の予定

◆3月

17日(日) 大斎節第2主日

18日(月) 主教教会博士エルサレムのシリル

19日(火) 聖ヨセフ日

21日(木) 聖書に学ぶ会(新約)

22日(金) 聖書に学ぶ会(旧約)

24日(日) 大斎節第3主日

25日(月) 聖マリヤへのみ告げの日

26日(火) 聖書に学ぶ会(旧約)

31日(日) 大斎節第4主日

◆4月

1日(月) 4月逝去者記念礼拝(聖餐式)

2日(火) 聖書に学ぶ会(新約)

3日(水) 主教リチャード

7日(日) 大斎節第5主日

8日(月) アメリカ大陸の殉教者

9日(火) 聖書に学ぶ会(旧約)

14日(日) 復活前主日

15日(月) 復活前月曜日

16日(火) 復活前火曜日

17日(水) 復活前水曜日

18日(木) 聖木曜日

19日(金) 聖金曜日(受苦日)

20日(土) 聖土曜日(フィスター・ウィジル)

21日(日) 復活日

22日(月) 復活後月曜日

23日(火) 復活後火曜日

24日(水) 聖書に学ぶ会(旧約)

25日(木) 復活後水曜日

26日(金) 復活後金曜日

## 大斎研修プログラム

3月10日 大斎節第1主日

「主教職の働き」 西原廉太司祭

3月17日 大斎節第2主日

「受難をめぐる音楽」

高柳章江聖職候補生

3月24日 大斎節第3主日

「聖なる三日間」 神崎和子司祭

4月7日 大斎節第5主日

「三光教会勤務にあたり」

原 充聖職候補生

## 教会と私

三光教会との接点は、近くの旗台小学校を卒業し、その後六十年ぶりに縁あって近くに転居したことです。また、妻と娘二人は香蘭女学校の卒業生であり、長女は三光教会で挙式しております。

更に姉が立教女学院に通っていた事もあり、聖書や聖歌集が身近にありましたが、深く聖書に触れるようになったのは妻の入信がきっかけでした。

私は入信前から聖書勉強会には皆勤賞に近い程頑張っておりますが、二ッ覚えると三ッ忘れる年代で、神崎司祭にはお世話になるばかりです。

今年五月で傘寿を迎え、人生の最終コーナーに差し掛かり、漸く神様の足元が遠くに見える所にとどろついた事、色々考えさせられますが、感謝しかありません。

これからも、脊髄にかかえている難病と付き合いながら、ここで出会ったすばらしい信仰をお持ち

の諸先輩に少しでも近づけるように努力していきたいと思っております。  
(萩原 輝晃)

## おもかげ

### ―野の花よりの連想―

昨年、マーガレット笠原陽子三十年忌にあたり何か記念を、と神崎先生に御相談。教会の苑にマーガレットの小鉢を植えさせていたいただきましたのが生き生きとして大きな株となり、今年、蕾をつけました。

なんとという御恩寵でしょう。日頃かかさずにお手入れくださる鉢の会の方々をはじめ、雨や太陽、風、目に見えぬ大きな愛と慈しみを感じて居ります。有難うございます。

甥フランシスコ賢、マーガレット陽子夫婦、そして息子将弘の妻テレジア江理香、共に若くして主の許に召されましたが、又逢う日までを「祈ること」「待つこと」「今を生きること」の大切さを、この小さな花に託して伝えてくれ

ました。是非、再び花を咲かせて私達に語りかけるマーガレットを御覧ください。  
(笠原 立子)

## 社会委員会が集めています。

左記の品物を集めています。皆様ご協力をお願いいたします。  
▽未使用のテレフォンカード  
・アジア・アフリカ等の貧しい村から有機農法を学ぶために若者が集まるアジア学院の運営資金として活用されます。

▽旅館・ホテルの使い捨て歯ブラシ・歯磨き・石鹸・タオル  
・山谷のおじさん達に使ってもらいます。

▽古シーツ・古タオル  
・秋津療育園や深川愛の園、きぼうの家で活用しています。

\* \*

## ◆教会報「ひかり」に御寄稿を！

エッセイ「教会と私」。内容は自由、400〜500字程度。広報委員にお届けください。いつでもお待ちしております。